るに至りたるも〇〇〇は朝日の威力を恐れて之を握り潰したる由なり

次で大正七年八月廿五日米騒動全國に波及して大騒擾を惹起せる秋に際し革命が今にも日本に襲來するが如く諷刺し否寧ろ此の機會を惡用して民衆を煽動せんが爲めに「白虹〇〇〇〇〇」との不敬なる文句を記載せり、此の記事に憤慨して池田弘壽、杉山竹三、土屋孝三等七名の青年は村山龍平を大阪中の島公園に要擊、面責したる上之を縛して白晝公然路上に曝らしものとなしたり、一方檢事局に於ても由々敷大事なりとなし大阪朝日新聞を朝憲紊亂罪に依りて起訴せり

斯くの如く大阪朝日新聞は一方檢事に起訴せられ他方其の社長村山が純眞無垢の青年の爲めに襲擊せられて人世無上の恥辱を受くるや今更の如く驚き當時の危險思想所有者鳥居素川、大山郁夫、長谷川如是閑等數名を解職し村山は社長を辭し上野理一を社長に西村天囚(勤王家)を主筆に任じ聊か社會に陳謝の意を表せり

然るに曩に朝憲紊亂罪に依りて起訴せられたる第一審判決の結果は意外に輕く只新聞紙法違反として執筆者二ケ月編輯者一ケ月の懲役に處せられしに止まりしかば世論沸騰止まる處を知らず檢事亦控訴せんとするの形勢ありて大阪朝日新聞は上下を擧げて戰々競々たるものありき此時に當り時の總理大臣にして司法大臣を兼ねたる原敬氏は新社長上野新主筆西村を上京せしめ申渡すに「朝日新聞にして今後猶其の態度を改めざるに於ては檢事控訴をなさしめ徹底的に鐵槌を下すべき」事を以てしたり

此處に於てか上野西村の兩名は驚愕措く處を知らず平心低頭必ず態度を改むべきを誓ひ大阪に歸るや直ちに其の第一面に於て罪を天下に謝し且つ天皇中心主義を忘れざる事を社會に向つて公約せり

斯くして大阪朝日新聞は辛じて發行禁止の厄を免れ世論も亦緩和するに至りたるが前に辭職したる村山龍平は間もなく社長の椅子に復するや依然改悛の態度なく鳥居等に代ふるに吉野作造が如き札付人物を雇入れ、神聖なる五ケ條の御誓文を時の當局が袞龍の袖に隱れて自己を衛らんとする悲痛なる叫なりと斷ずる等言語同斷の事のみ多かりしが今又冐頭に記せしが如き一大不敬記事を掲載せり、我帝國の臣民たるもの之を見て誰か默し得るものぞ、吾人は如何なる犧牲を拂ふも此不逞新聞を撲滅せざるべからず、苟しくも忠誠の熱血溢るゝの士は來れ來つて吾人と共に此獅子身中の蟲を帝國より除去せんが爲めに盡せ

備考 右の目的を貫徹するの捷徑は新聞社唯一の糧道たる廣告收入を杜絶するに在り、憂國の士は自ら東京、大阪、兩朝日新聞に廣告を掲載せざるやう努むるのみならずその周圍に對しても亦之が實行を勸誘せよ

大正十四年　月

赤化防止團